



コンクリート塗装ガイドブック

首都高速道路株式会社(SDK)

■ 規格・適合仕様

● 橋梁構造物設計要領 コンクリート片剥落防止編 (平成 26 年 8 月(一部改訂))

◆ 剥落防止対策の適用区分

◆ 剥落防止工の評価基準

● A 種

○ タフガードスマート バルーン工法 A-100 仕様

(仕様 No.TG-213)

○ タフガードスマート バルーン工法 A-50 仕様

(仕様 No.TG-214)

● B 種

○ タフガードスマート バルーン工法 B-50 仕様

(仕様 No.TG-215)

○ タフガードスマート VC メッシュ工法 VC-B 仕様

(仕様 No.TG-226-2)

◆ 断面修復材の規格

◆ 鉄筋防錆材の規格

○ タフガード SDK 断面修復仕様

(仕様 No.TG-114)

◆ 既設コンクリート塗装に使用する材料

○ タフガード SDK 既設構造物仕様

(仕様 No.TG-116)

● 橋梁塗装設計施工要領 (平成 25 年 12 月(一部改訂))

◆ コンクリート構造物の塗装に用いる材料の規格

○ タフガード SDK 新設構造物仕様

(仕様 No.TG-113)

● 鋼橋塗装設計施工要領(2019 年 7 月)

◆ 防水塗装の規格

○ タフガード防水塗装 Q-R 仕様

(仕様 No.TG-224)

規 格

● 橋梁構造物設計要領 コンクリート片剥落防止編（平成26年8月（一部改定））

◆ 剥落防止対策の適用区分

適 用 範 囲	剥落防止工
高欄及び張出床版（半地下への張り出し部等も含む）など図 -3.1に示す範囲	A 種
高欄側面、PC・RC桁、RC橋脚やトンネルなどのコンクリート構造物の図 -3.2、3.3に示す範囲と、図 -3.1に規定のない範囲	B 種

1) A 種の適用範囲

 適用範囲（単位：mm）

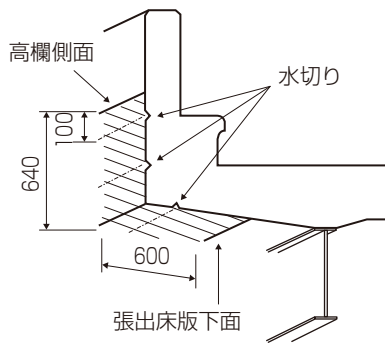


図 -3.1 A 種の適用範囲

2) B 種の適用範囲

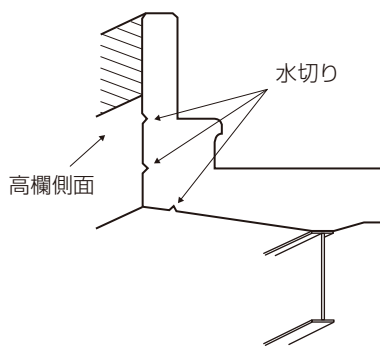


図 -3.2(a) 高欄および張出床版

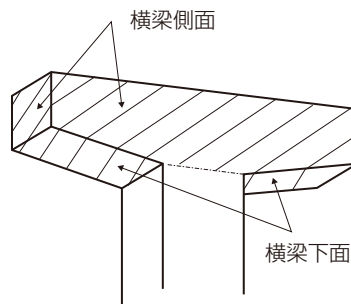


図 -3.2(b) 橋脚

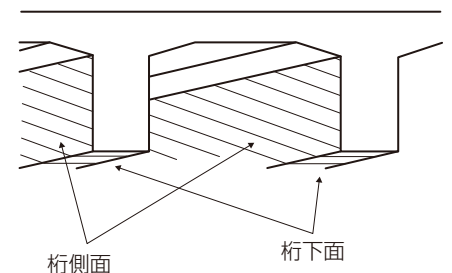


図 -3.2(c) 桁

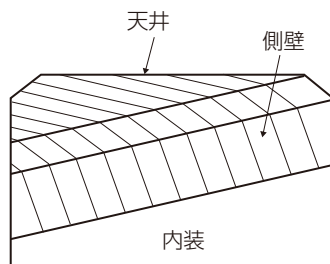


図 -3.2(d) トンネル

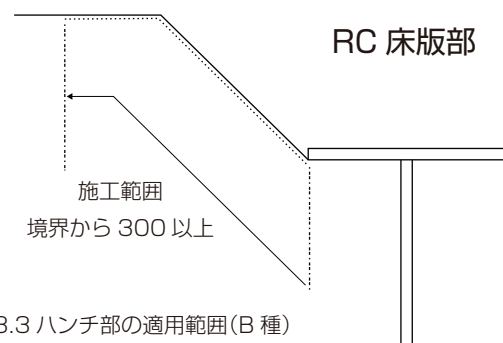


図 -3.3 ハンチ部の適用範囲(B 種)

首都高速道路株式会社

規 格

● 橋梁構造物設計要領 コンクリート片剥落防止編（平成26年8月（一部改訂））

◆ 剥落防止工の評価基準

項 目		評 価 基 準	
		A 種	B 種
耐荷性		φ 10 cm当たりの押抜き荷重 1.5k N 以上	φ 10 cm当たりの押抜き荷重 0.3k N 以上
付 着 性	標準養生	付着強度 1.5 N/㎡ 以上	付着強度 1.0 N/㎡ 以上
	半水中養生		
	温冷繰返し養生		
耐久性		● 屋外暴露(1 年間)後に押抜き試験を行い、必要な押抜性能を保持していること ● 促進耐候試験 500 時間経過後に光沢保持率が 70% 以上、色差 ΔE が 10 以内であること	
伸び性能		押抜試験で 10 mm以上の変位が確認できること	
景 観		施工後の外観に著しい不連続性などがなく、周囲と調和すること	

◆ 断面修復材の規格

試 験 項 目		規 格
固化時間		0.5 時間以上 8.0 時間以内
厚塗り作業性		こて付作業に支障なく 20 mmの厚塗りでもたれを生じないこと
硬化収縮率		0.05% 以下
耐アルカリ性試験		浸漬後にふくれ、われ、はがれを認めないこと
温冷繰返し試験		試験後にふくれ、われ、はがれを認めないこと
付着強さ	標準養生後	1.5 MPa 以上(15 kg f/ ㎠ 以上)
	耐アルカリ性試験後	1.0 MPa 以上(10 kg f/ ㎠ 以上)
	温冷繰返し試験後	1.0 MPa 以上(10 kg f/ ㎠ 以上)
曲げ強さ		5.0 MPa 以上(50 kg f/ ㎠ 以上)
圧縮強さ		20～40 MPa 以上(200～400 kg f/ ㎠ 以上)
圧縮弾性係数		1.0×10 ³ MPa 以上(1.0×10 ⁴ kg f/ ㎠ 以上)

◆ 鉄筋防錆材の規格

試 験 項 目		規 格
乾燥時間		8 時間以内
塗膜の外観		われ、はがれ、あな、流れがないこと
塩水噴霧試験（240時間）		2 枚とも、カット線から 2.0 mmを除いた部分にさび、ふくれ、はがれ、われを認めないこと
耐アルカリ性試験（1ヵ月）		2 枚とも、ふくれ、はがれ、さびを認めないこと
付着強さ	耐アルカリ試験前	1.5 MPa 以上(15 kg f/ ㎠ 以上)
	耐アルカリ試験後	1.0 MPa 以上(10 kg f/ ㎠ 以上)

首都高速道路株式会社

規 格

● 橋梁構造物設計要領 コンクリート片剥落防止編（平成26年8月（一部改訂））

◆ 既設コンクリート塗装に使用する材料

試 験 項 目		規 格	
		標 準 養 生 後	屋外暴露1年後
塗 膜	外 観	塗膜は均一で流れ、むら、ふくれ、われ、はがれのないこと	同左
	光 沢	光沢残存率 60% 以上	光沢残存率 60% 以上
	白亜化	白亜化のないこと	白亜化のないこと
	色 差	$\Delta E=3.0$ 以下	$\Delta E=3.0$ 以下
耐汚染性		汚染除去率 99% 以上であること	95% 以上であること
遮塩性		塗膜の塩素イオン通過量が $1.0 \times 10^{-3} \text{ mg / cm}^2$ 以下であること	—
耐アルカリ性		浸漬後の塗膜にふくれ、われ、はがれがないこと	—
耐裏水性		浸漬後の塗膜にふくれ、われ、はがれがないこと	—
温冷繰返し		試験後の塗膜にふくれ、われ、はがれがないこと	—
付 着 強 さ	コンクリートとの付着	1.0 MPa 以上 (10 kg f / cm^2 以上)	1.0 MPa 以上 (10 kg f / cm^2 以上)
	断面修復材との付着	1.0 MPa 以上 (10 kg f / cm^2 以上)	—
	耐アルカリ性試験後の付着	1.0 MPa 以上 (10 kg f / cm^2 以上)	—
	耐裏水性試験後の付着	1.0 MPa 以上 (10 kg f / cm^2 以上)	—
	温冷繰返し試験後の付着	1.0 MPa 以上 (10 kg f / cm^2 以上)	—
ひび割れ追従性		塗膜の伸び率 2.0% 以上	—
促進中性化阻止性		中性化深さ 1 mm 以下であること	—

● 橋梁塗装設計施工要領（平成25年12月（一部改訂））

◆ コンクリート構造物用塗料の材料規格

試 験 項 目		規 格	
		標 準 養 生 後	屋外暴露1年後
塗 膜	外 観	塗膜は均一で流れ、むら、ふくれ、われ、はがれのないこと	同左
	光 沢	60 以上	光沢残存率 60% 以上
	白亜化	—	白亜化のないこと
	色 差	—	$\Delta E=3.0$ 以下
耐汚染性		汚染除去率 99% 以上であること	95% 以上であること
遮塩性		塗膜の塩素イオン通過量が $1.0 \times 10^{-3} \text{ mg / cm}^2$ 以下であること	—
耐アルカリ性		浸漬後の塗膜にふくれ、われ、はがれがないこと	—
耐裏水性		浸漬後の塗膜にふくれ、われ、はがれがないこと	—
温冷繰返し		浸漬後の塗膜にふくれ、われ、はがれがないこと	1.0MPa 以上
付 着 強 さ	コンクリートとの付着	1.0MPa 以上	1N / mm^2 以上
	断面修復材との付着	1.0MPa 以上	—
	耐アルカリ試験後の付着	1.0MPa 以上	—
	耐裏水性試験後の付着	1.0MPa 以上	—
	温冷繰返し試験後の付着	1.0MPa 以上	—
ひび割れ追従性		塗膜の伸び率 2.0% 以上	—
促進中性化阻止性		中性化深さ 1 mm 以下であること	—

首都高速道路株式会社

規 格

● 鋼橋塗装設計施工要領（2019年7月）

◆ 防水塗装の規格AB-C-1（SDK B-401）A種

試 験 項 目		規 格
耐荷性		Φ10cm 当たりの押し抜き荷重 1.5kN 以上
付着性 (付着強度)	標準養生	1.0N/mm ² 以上
	半水中養生	
	温冷繰返し養生	
耐久性	屋外暴露試験後	1.5kN 以上
	促進耐候試験後	促進耐候性試験 500 時間経過後に光沢保持率が 70% 以上、色差 ΔE_{ab} が 10 以内であること
伸び性能		10mm 以上の変位が確認できること
赤外吸収スペクトル		抜き取り検査の赤外吸収スペクトルが品質規格試験のそれと同一とみとめられること
景観（施工後の外観）		著しい不連続がなく調和していること
遮塩性	塩素イオン透過量	$5.0 \times 10^{-3} \text{mg/cm}^2 \cdot \text{日}$ 以下
中性化阻止性	中性化深さ	1mm 以下
水蒸気透過阻止性	水蒸気透過量	$5.0 \text{mg/cm}^2 \cdot \text{日}$ 以下
ひび割れ追従性	標準養生後/常温時	塗膜の伸びが 2.0mm 以上
	耐候性試験後/常温時	
	標準養生後/低温時	塗膜の伸びが 0.4mm 以上

タフガードスマート バルーン工法 A-100仕様

エポキシ系プライマー／エポキシ系パテ／厚膜柔軟形ポリウレタン系中塗／柔軟形ポリウレタン系上塗

適合規格：首都高速道路株式会社

橋梁構造物設計要領 コンクリート片剥落防止編

剥落防止工の評価基準 A種

工 程	塗 料 名 (一般名称)	目標膜厚 (μm)	標準使用量 (kg/m^2)	塗装方法	塗装間隔 (23°C)	シンナー名 (希釈率)
素地調整	サンダーケレン・シンナー拭き・ブラシやエアブロー・その他規定された工法により、段差修正やレイタンス・塩分・油脂分などの異物や脆弱層を除去し、施工に適した状態にする。又、欠損部、鉄筋露出部や漏水がある場合は別途鉄筋防錆、埋め戻し等の断面修復や止水、導水処理を事前に実施する。					
プライマー	タフガード E プライマー (エポキシ樹脂プライマー)	—	0.10	ローラー はけ	4 時間以上 ～ 7 日以内	タフガードエポキシシンナー (0～20%)
パ テ	タフガード E パテ N-2 (エポキシ樹脂パテ)	—	0.40	へら こて	16 時間以上 ～ 7 日以内	—
中 塗	タフガード BD 中塗 #100 (厚膜柔軟形ポリウレタン樹脂塗料中塗)	1000	1.80	ローラー はけ へら こて	16 時間以上 ～ 5 日以内	タフガードウレタンシンナー (0～5%)
上 塗	タフガード UD 上塗 (柔軟形ポリウレタン樹脂塗料上塗)	30	0.12	ローラー はけ	—	タフガードウレタンシンナー (10～20%)

- パテの使用量は、コンクリート素地の状態によって大幅に変動します。
- 中塗りの塗装はローラー(ウール、マスチック)などで配り、こて(金、ゴム)で仕上げる方法を推奨致します。
- 製品安全に関する詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

タフガードスマート バルーン工法 A-50 仕様

エポキシ系プライマー／エポキシ系パテ／厚膜柔軟形ポリウレタン系中塗／柔軟形ポリウレタン系上塗

適合規格： 首都高速道路株式会社

橋梁構造物設計要領 コンクリート片剥落防止編

剥落防止工の評価基準 A種

工 程	塗 料 名 (一般名称)	目標膜厚 (μm)	標準使用量 (kg/m^2)	塗装方法	塗装間隔 (23°C)	シンナー名 (希釈率)
素地調整	サンダーケレン・シンナー拭き・ブラシやエアーブロー・その他規定された方法により、段差修正やレイトンス・塩分・油脂分などの異物や脆弱層を除去し、施工に適した状態にする。また、欠損部、鉄筋露出部や漏水がある場合は別途鉄筋防さび、埋め戻しなどの断面修復や止水、導水処理を事前を実施する。					
プライマー	タフガード E プライマー (エポキシ樹脂プライマー)	—	0.10	ローラー はけ	4 時間以上 ～ 7 日以内	タフガードエポキシシンナー (0～20%)
パ テ	タフガード E パテ N-2 (エポキシ樹脂パテ)	—	0.40	へら こて	16 時間以上 ～ 7 日以内	—
中塗(1)	タフガード BD 中塗 #100 (厚膜柔軟形ポリウレタン樹脂塗料中塗)	500	0.90	ローラー はけ へら こて	16 時間以上 ～ 5 日以内	タフガードウレタンシンナー (0～5%)
中塗(2)	タフガード BD 中塗 #100 (厚膜柔軟形ポリウレタン樹脂塗料中塗)	500	0.90	ローラー はけ へら こて	16 時間以上 ～ 5 日以内	タフガードウレタンシンナー (0～5%)
上 塗	タフガード UD 上塗 (柔軟形ポリウレタン樹脂塗料上塗)	30	0.12	ローラー はけ	—	タフガードウレタンシンナー (10～20%)

- パテの使用量は、コンクリート素地の状態によって大幅に変動します。
- 中塗りの塗装はローラー(ウール、マスチック)などで配り、こて(金、ゴム)で仕上げる方法を推奨致します。
- 製品安全に関する詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

タフガードスマート バルーン工法 B-50 仕様

エポキシ系プライマー／エポキシ系パテ／厚膜柔軟形ポリウレタン系中塗／柔軟形ポリウレタン系上塗

適合規格：首都高速道路株式会社

橋梁構造物設計要領 コンクリート片剥落防止編

剥落防止工の評価基準 B種

工 程	塗 料 名 (一般名称)	目標膜厚 (μm)	標準使用量 (kg/m^2)	塗装方法	塗装間隔 (23°C)	シンナー名 (希釈率)
素地調整	サンダーケレン・シンナー拭き・ブラシやエアーブロー・その他規定された方法により、段差修正やレイタンス・塩分・油脂分などの異物や脆弱層を除去し、施工に適した状態にする。また、欠損部、鉄筋露出部や漏水がある場合は別途鉄筋防さび、埋め戻しなどの断面修復や止水、導水処理を事前に実施する。					
プライマー	タフガード E プライマー (エポキシ樹脂プライマー)	—	0.10	ローラー はけ	4 時間以上 ～ 7 日以内	タフガードエポキシシンナー (0～20%)
パ テ	タフガード E パテ N-2 (エポキシ樹脂パテ)	—	0.40	へら こて	16 時間以上 ～ 7 日以内	—
中 塗	タフガード BD 中塗 #100 (厚膜柔軟形ポリウレタン樹脂塗料中塗)	500	0.90	ローラー はけ へら こて	16 時間以上 ～ 5 日以内	タフガードウレタンシンナー (0～5%)
上 塗	タフガード UD 上塗 (柔軟形ポリウレタン樹脂塗料上塗)	30	0.12	ローラー はけ	—	タフガードウレタンシンナー (10～20%)

- パテの使用量は、コンクリート素地の状態によって大幅に変動します。
- 中塗りの塗装はローラー(ウール、マスチック)などで配り、こて(金、ゴム)で仕上げる方法を推奨致します。
- 製品安全に関する詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

タフガードスマート VC メッシュ工法 VC-B仕様

速乾形特殊クリヤーパテ／柔軟形特殊クリヤーパテ／ガラス繊維メッシュ／柔軟形特殊クリヤーパテ

適合規格： 首都高速道路株式会社

橋梁構造物設計要領 コンクリート片剥落防止編

剥落防止工の評価基準 B種

工 程	塗 料 名 (一般名称)	目標膜厚 (μm)	標準使用量 (kg/m^2)	塗装方法	塗装間隔 (23°C)	シンナー名 (希釈率)
素地調整	サンダーケレン・シンナー拭き・ブラシやエアブロー・その他規定された工法により、段差修正やレイトンス・塩分・油脂分などの異物や脆弱層を除去し、施工に適した状態にする。又、欠損部、鉄筋露出部や漏水がある場合は別途鉄筋防錆、埋め戻し等の断面修復や止水、導水処理を事前に実施する。					
プライマー	タフガードクリヤープライマー (速乾形特殊クリヤープライマー)	—	$0.12^{※1・2}$ ～ 0.17	はけ ローラー	30分以上 ～ 7日以内	—
パ テ	タフガードクリヤーパテ (柔軟形特殊クリヤーパテ)	$500^{※5}$	$0.36^{※3}$ ～ 0.50	へら こて	直ちに ～ 30分以内	—
メッシュ	KGG4040 $^{※4}$ (ガラス繊維メッシュ)		$1.1 (\text{m}^2)$	へら こて	30分以上 ～ 5日以内	—
上 塗	タフガードクリヤーパテ (柔軟形特殊クリヤー塗料)		0.24	へら こて	—	—

※1 プライマーの標準使用量はコンクリート素地の状態によって大幅に変動し、場合により標準使用量を超えることがあります。

※2 吸い込みがほとんどない新設基材の場合は1回塗装でも対応可能ですが、改修時は2回以上の塗装が必須となります。プライマー塗装後の状態により、視認性に大きな影響を与えますので、指触で成膜を確認できるまで十分な塗装回数を確保してください。コンクリート素地の凹凸が大きくて判断が難しい場合は霧吹きで水を吹きかけ、水をはじかずに濡れ色になった場合は再度塗装してください。また、水を吹きかけて判断した場合は、付着した水を十分にふき取った後、 $23^\circ\text{C} \times 30$ 分以上の間隔を空けてから再塗装してください。

※3 パテの標準使用量はコンクリート素地の状態によって大幅に変動します。パテは厚膜になると白濁します(躯体の保護性能には問題ありません)ので、できるだけコテのエッジを立て塗装し、主に巣穴充填等に使用してください。素地のひび割れ、巣穴などの深さが5mmを超える等凹凸が著しい場合やパテの使用量が $0.74\text{kg}/\text{m}^2$ を超えることが予測される場合は、プライマー塗装前に補修材にて修復を行ってください。

※4 KGG4040は倉敷紡績(株)の製品です。

※5 膜厚はパテ工 $0.36\text{kg}/\text{m}^2$ 、仕上げ工 $0.24\text{kg}/\text{m}^2$ で塗装した場合の参考値です。

● ダレ防止と視認性確保のため、過膜厚にならない様にご注意ください。

● 躯体の色相が黒っぽい場合や施工環境により、塗膜本来の色相(白色系クリヤー)が目立つことがあります。

● 製品安全に関する詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

タフガード SDK 断面修復仕様

エポキシ系錆止め／エポキシ系接着剤／ポリマーセメントモルタル

適合規格：首都高速道路株式会社

橋梁構造物設計要領 コンクリート片剥落防止編

断面修復材の規格・鉄筋防錆材の規格

工 程	塗 料 名 (一般名称)	目標膜厚 (μm)	標準使用量 (kg/m^2)	塗装方法	塗装間隔 (23°C)	シンナー名 (希釈率)
素地調整	コンクリート表面に鉄筋の錆汁が出ている個所、または鉄筋の錆により、コンクリートがはく離、はく落およびコンクリートが浮いている部分について次の処置を行う。 (1) 劣化部の周辺コンクリートを手のみ・電動ピック・ブラストなどではつとり、腐食した鉄筋を露出させる。 (2) 腐食鉄筋の錆は、ブラスト・電動工具・手工具などで除去する。					
鉄筋防錆	ハイボン 20 ファイン (弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗)	50	0.20	はけ	16 時間以上 ～ 7 日以内	塗料用シンナーA (0～10%)
接 着	タフガード E クロス用中塗 N (エポキシ樹脂接着剤)	—	0.25	はけ ローラー	※注 1 1 時間以上 ～ 3 時間以内	—
断面修復	ライオン GRLC ※注 2 (軽量ポリマーセメントモルタル)	—	※注 3 必要量 ($1450\text{kg}/\text{m}^3$)	こて	1 日以上	—

※注 1 断面修復工程は、接着剤の粘着状態で軽量モルタルを充填してください。

※注 2 ライオン GRLC は住友大阪セメントの製品です。

※注 3 一般的な使用量です。

● 製品安全に関する詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

タフガード SDK 既設構造物仕様

エポキシ系プライマー／エポキシ系パテ／エポキシ系中塗／ポリウレタン系上塗

適合規格： 首都高速道路株式会社

橋梁構造物設計要領 コンクリート片剥落防止編

既設コンクリート塗装に使用する材料

工 程	塗 料 名 (一般名称)	目標膜厚 (μm)	標準使用量 (kg/m^2)	塗装方法	塗装間隔 (23°C)	シンナー名 (希釈率)
素地調整	サンダーケレン・シンナー拭き・ブラシやエアーブロー・その他規定された方法により、段差修正やレイトンス・塩分・油脂分などの異物や脆弱層を除去し、施工に適した状態にする。また、欠損部、鉄筋露出部や漏水がある場合は別途鉄筋防さび、埋め戻しなどの断面修復や止水、導水処理を事前に実施する。					
プライマー	タフガード E プライマー (エポキシ樹脂プライマー)	—	0.10	ローラー はけ	16 時間以上 ～ 7 日以内	タフガードエポキシシンナー (0～20%)
パ テ	タフガード E パテ N-2 (エポキシ樹脂パテ)	—	0.40	へら こて	16 時間以上 ～ 7 日以内	—
中 塗	タフガード E 中塗 (エポキシ樹脂塗料中塗)	60	0.26	ローラー はけ	16 時間以上 ～ 7 日以内	タフガードエポキシシンナー (0～5%)
上 塗	タフガード U 上塗 (ポリウレタン樹脂塗料上塗)	30	0.12	ローラー はけ	—	タフガードウレタンシンナー (10～20%)

- パテの使用量は、コンクリート素地の状態によって大幅に変動します。
- 製品安全に関する詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

タフガード SDK 新設構造物仕様

エポキシ系プライマー／エポキシ系パテ／エポキシ系中塗／ポリウレタン系上塗

適合規格：首都高速道路株式会社

橋梁塗装設計施工要領

コンクリート構造物の塗装に用いる材料の規格

工 程	塗 料 名 (一般名称)	目標膜厚 (μm)	標準使用量 (kg/m^2)	塗装方法	塗装間隔 (23°C)	シンナー名 (希釈率)
素地調整	サンダーケレン・シンナー拭き・ブラシやエアーブロー・その他規定された方法により、段差修正やレイトンス・塩分・油脂分などの異物や脆弱層を除去し、施工に適した状態にする。また、欠損部、鉄筋露出部や漏水がある場合は別途鉄筋防さび、埋め戻しなどの断面修復や止水、導水処理を事前に実施する。					
プライマー	タフガード E プライマー (エポキシ樹脂プライマー)	—	0.10	ローラー はけ	16 時間以上 ～ 7 日以内	タフガードエポキシシンナー (0～20%)
パ テ	タフガード E パテ N-2 (エポキシ樹脂パテ)	—	0.30	へら こて	16 時間以上 ～ 7 日以内	—
中 塗	タフガード E 中塗 (エポキシ樹脂塗料中塗)	60	0.26	ローラー はけ	16 時間以上 ～ 7 日以内	タフガードエポキシシンナー (0～5%)
上 塗	タフガード U 上塗 (ポリウレタン樹脂塗料上塗)	30	0.12	ローラー はけ	—	タフガードウレタンシンナー (10～20%)

- パテの使用量は、コンクリート素地の状態によって大幅に変動します。
- 製品安全に関する詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

タフガード防水塗装 Q－R仕様

水性エポキシ系ポリマーセメントモルタル／水性エポキシ樹脂塗料／ウレタンウレア樹脂系塗料中塗／柔軟形ポリウレタン樹脂塗料上塗

適合規格： 首都高速道路株式会社

鋼橋塗装設計施工要領

防水塗装の規格

工 程	塗 料 名 (一般名称)	目標膜厚 (μm)	標準使用量 (kg/m^2)	塗装方法	塗装間隔 (23°C)	シンナー名 (希釈率)
下地処理	サンダーケレン・シンナー拭き・ブラシやエアブロー・その他規定された工法により、段差修正やレイトンス・塩分・油脂分などの異物や脆弱層を除去し、施工に適した状態にする。又、欠損部、鉄筋露出部や漏水がある場合は別途鉄筋防錆、埋め戻し等の断面修復や止水、導水処理を事前に実施する。					
素地調整 [※] (コンクリート面のみ)	タフガード EW フィラー (水性エポキシ系ポリマーセメントモルタル)	—	1.00	へら こて	16 時間以上 ～ 14 日以内	—
プライマー	水性ハイボン 20 (水性エポキシ樹脂塗料)	—	0.20	ローラー はけ	4 時間以上 ～ 10 日以内	水道水 (0～5%)
中 塗	タフガード Q－R (ウレタンウレア樹脂系塗料中塗)	1000	1.40	へら こて	2 時間以上 ～ 3 日以内	—
上 塗	タフガード UD ファイン (柔軟形ポリウレタン樹脂塗料上塗)	30	0.12	ローラー はけ	—	塗料シンナーA (0～10%)

※ 鋼面は素地調整 1 種または 1 種相当とする。

※ 鋼面は水性有機ジンクリッチペイント (SDK W-512: 水性ジンキー 8000HB (新)) を $600\text{g}/\text{m}^2$ 塗装 (吹付) または $250\text{g}/\text{m}^2 \times 2$ 回塗装 (はけ・ローラー) を行ってください。

※ 新設部材については、素地調整を 1 種とした上で、水性有機ジンクリッチペイントを無機ジンクリッチペイント $600\text{g}/\text{m}^2$ の吹付塗装に代える。

● タフガード EW フィラーの使用量はコンクリート素地の状態によって大幅に変動します。

● 製品安全に関する詳細な内容は、安全データシート (SDS) をご参照ください。